



絆

きずな

令和5年4月
第136号
荒川区立南千住第二中学校
校長 松田 公好

ナンちゃん・ニーくん



自分の集団が一番

校長 松田 公好

4月7日(金)、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、多くの保護者の皆さまが見守る中、本校第35回入学式を無事に挙行できましたことに、あらためて感謝申し上げます。

この入学式で新生129名を迎え、進級した新2年生152名、新3年生142名と合わせて全校生徒数423名で、南二中の令和5年度がスタートしました。

入学式では「自分の学校を好きになること」「自分の学校に誇りをもつこと」が、中学校生活を充実させ、豊かなものにするために必要であり、そのために南二中は今年度も、「笑顔あふれる明るい学校」と「地域を愛し、地域に愛される学校」を目指すのだということを話しました。

そして、具体的には

- ・一人ひとりが笑顔でいることを意識して、明るい雰囲気をつくろう
- ・地域学習に意欲的に取り組み、地域の素晴らしさに気づき、地域を愛する気持ちをもとう
- ・地域貢献活動に積極的に参加して、地域に愛される学校を目指そう

と呼びかけました。

さらに7月10日の朝礼では、「自分のクラス」を好きになることの大切さについて触れ、自分が所属することになった新しいクラスに対して「このクラスは嫌だ」「あのクラスが良かった」といったネガティブな考えをもつのではなく、自分のクラスやクラスメイトの良さに目を向け、みんなで協力してよいクラスをつくろうとするポジティブな姿勢でいることが、楽しく充実した学校生活につながるのだと話しました。

5月20日に予定している『運動会』は、クラスの良さを知り、クラスがまとまる最初の大きな絶好のチャンスです。勝ち負けばかりにこだわるのではなく、良いクラスづくりを意識して、応援や競技に取り組んでください。

来年の3月、クラスの生徒全員が「**自分のクラスが一番!**」と自信をもって言える。こんなクラスができていたら最高だと思います。

今年度も学校目標は「**たくましい人**」です。教職員一同、心も、頭も、体もたくましい生徒の育成に、全力で取り組んでまいります。

今年度もご理解とご協力をお願いいたします。



第35回 入学式

ご入学おめでとうございます



胸花をつけてもらう

4月7日(金)、南千住二中第35回入学式が行われました。今年度の新入生は、129名で4クラスのスタートとなりました。全校では各学年4クラス、計12クラスとなります。



新入生の入場

ここ3年は感染症予防のため、2,3年生のいない寂しい入学式でしたが、今年は新入生を迎えるために、前日に新たな学年、新たなクラスになった2,3年生が会場の準備をし、式にも参列できました。式は厳粛に行われ、新入生も緊張気味でしたが、担任の先生の呼名に元気「はい」と応えるようすには、南千住二中での新しい生活に対する希望があふれていました。



厳粛な式が始まりました

式の中では、2,3年生を代表して生徒会本部役員の生徒が「不安な時は相談してください。共に成長していきましょう。」と歓迎のことばを述べました。そして、新入生代表が「学校目標であるたくましい人になれるよう努力し、笑顔で学校生活を送ります。」と誓いのことばを述べました。

新入生も2,3年生も大変立派な態度で、来賓の方々からもお褒めのことばをいただきました。また、式の終わりには2,3年生によって校歌が紹介されました。2,3年生もこれまで歌う機会がほとんどないにもかかわらず、しっかりした歌声をアリーナ(体育館)に響かせることができました。

これから、全校生徒一丸となり。仲良く楽しく、そして笑顔あふれる学校生活を送ることを誓う場となりました。

生徒会オリエンテーション

委員会を紹介



入学式から土日をはさみ、4月10日(月)5,6校時には生徒会オリエンテーションが行われました。入学と同時に全生徒が南千住二中学生会の会員となります。生徒会オリエンテーションは、生徒会活動とは何か、各専門委員会はどのような活動をしているのかを説明するもので、同時に2,3年生と新1年生の「対面式」の意味も合わせもっています。

会の中では、生徒会活動や委員会活動、学校のきまりについての説明、2,3年生による校歌の紹介、入会の証に鉢植えの花のプレゼントなど、盛りだくさんの内容でした。会の終わりには新入生代表が新入生を代表して生徒会活動の決意と会のお礼のあいさつをしました。

この会を受け各クラスで専門委員が選出され、生徒会活動が本格的にスタートしました。

お世話になりました・よろしくお願ひします

新年度に伴い、教職員の異動がありました。これまで学校を支えてくださった先生・主事さんありがとうございました。新たにお見えになった先生・主事さんよろしくお願ひします。

- 【転出等】 国語 飯田 朋子 先生(荒川区立第七中学校へ)
 社会 松本 しおり 先生(文京区立茗台中学校へ)
 社会(音休替) 飯島 亮 先生(台東区立駒形中学校へ)
 理科 長田 利子 先生(台東区立柏葉中学校へ)
 音楽 井上 美香 先生(江戸川区立東葛西中学校へ)
 家庭 水村 英美子 先生(練馬区立練馬中学校へ)
 養護 高取 由紀 先生(板橋区立志村第四中学校へ)
 事務専門員 山田 正美 さん(荒川区立第七中学校へ)

- 【新転任】 国語 望月 真波 先生(荒川区立第七中学校より)
 社会 長塚 佐知子 先生(文京区立茗台中学校より)
 数学(音休替) 圓谷 由佳 先生(足立区立第十四中学校より)
 音楽 竹下 菫 先生(新規採用)
 家庭 小谷中 香穂 先生(荒川区立第九中学校より)
 養護 松田 裕子 先生(墨田区立桜堤中学校より)
 事務専門員 山木 志保子 さん(荒川区立第一中学校より)

左記以外にも講師の先生の異動もありました

〔令和5年度教職員一覧〕

職名等	担任	氏名	教科等
校長		松田 公好	経営
副校長		伊藤 錦之助	経営
主幹教諭・1学年主任	1組担任	望月 真波	国語
主任教諭	2組担任	高橋 宏治	数学
教諭	3組担任	宮脇 大地	英語
主任教諭・進路指導主任	4組担任	長塚 佐知子	社会
主任教諭・教務主任	副担任	平岡 祐樹	数学
教諭	副担任	竹下 菫	音楽
非常勤教員	副担任	毛利 敦	英語
主任養護教諭・保健給食主任	学年所属	松田 裕子	養護
教諭	1組担任	中村 直樹	技術家庭
教諭	2組担任	坂井 悠理	理科
教諭	3組担任	大島 陸	社会
教諭	4組担任	橋本 和加子	保健体育
主幹教諭・研究主任・2学年主任	副担任	富岡 徹志	英語
教諭	副担任	圓谷 由佳	数学
教諭	副担任	村上 蒼	美術
教諭	1組担任	南部 大樹	英語
教諭	2組担任	石川 秀康	保健体育
教諭・生活指導主任	3組担任	小林 朋生	国語
主任教諭	4組担任	澤田 真樹子	英語
主任教諭・3学年主任	副担任	中陳 啓司	理科
教諭	副担任	鬼澤 大地	数学
教諭	副担任	小谷中 香穂	家庭
事務主任	—	水澤 さやか	事務
用務主事・技能主任	—	青木 文昭	用務
学校司書(会計年度)	—	時田 薫	司書
栄養士(会計年度)	—	小山 朋美	栄養士
事務(会計年度)	—	山木 志保子	事務
用務(会計年度)	—	川端 久美子	用務
用務(会計年度)	—	中野 智子	用務
事務補助職員	—	金宮 美代子	事務
学校管理員	—	桂田 武夫	学校管理
学校管理員	—	鈴木 茂夫	学校管理
非常勤講師	—	森田 真智子	保健体育
外国語指導員(NEA)	—	(5月配置予定)	英語
スクールカウンセラー	—	森 敬三	カウンセリング
心理専門相談員	—	吉田 洋子	心理相談
特別支援教室専門員	—	高橋 衣美	I-class
スクール・ソーシャル・ワーカー	—	田村 映子	教育相談
特別支援教育支援員	—	西川 良大	特別支援
スクール・サポート・スタッフ	—	齋 藤 路	学校庶務
他 非常勤講師、特別支援教育巡回員、情報教育支援員、部活動指導員、給食調理員(PTワークスペース)			

部活動説明会

4月13日(木)5校時には、部活動説明会が行われました。

1年生に対し、各部活動の部長が活動内容や部のようす、活動の楽しさなどをPRして入部を促しました。その後、部活動の意義やきまりの説明がありました。1年生は翌日から仮入部を経て4月28(金)までに正式入部を済ませます。



部長が部活動をPR「入部してください」

また、南千住二中には「レスキュー部」があります。レスキュー部はすべての部活動と兼部することができます。防災の知識や行動力を身につけることを目標に活動しています。

部活動等の活躍

春休み中にバレーボール部、バスケットボール部の大会がありました。また、運動部は大会の季節を迎えています。それぞれの部活動が快進撃を続けています。新入部員も続々と入部中。これからが一層楽しみです。**頑張れ！南千住二中！！**

《バレーボール部》

瀧野川女子学園杯バレーボール大会 **優勝**

《バスケットボール部》

【女子】サンライズ杯バスケットボール大会 **優勝**

最優秀選手 1名 優秀選手 1名 が選出されました

【男子】サンライズ杯バスケットボール大会 **優勝**

最優秀選手 1名 優秀選手 1名 が選出されました

南千住マイスターのコーナー

芭蕉は弟子の河合曾良(そら)を伴い千住を出立したあと、日光・那須・白川の関・松島・平泉・立石寺・出羽三山・越後・越中・金沢・敦賀など、東北から北陸をめぐり岐阜の大垣まで、実に五ヶ月かけ約六百里(2400km)を旅して多くの俳句と紀行文を残しました。「夏草や兵どもが夢のあと(平泉)」「閑さや岩にしみ入る 蟬の声(立石寺)」「五月雨をあつめて早し最上川(新庄)」「荒海や 佐渡によこたふ 天の河(越後出雲崎)」などは特に有名でよく知られた句です。芭蕉は「更科紀行」など、他にも多くの紀行文を残しましたが、おくのほそ道から帰って5年、元禄七年十月十二日「旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る」という辞世の句を詠んで60年の人生を終えました。

南千住には多くの史跡・文化財があります。これらは、人々の営みによってできたものであり、必ず人とのつながりがあります。南千住には歴史の教科書にも出てくるような、多くの歴史上の人物と関係が深い史跡や文化財があります。このコーナーでは、南千住の史跡・文化財と歴史上の人物を紹介していきます。第一回は「松尾芭蕉」です。

松尾芭蕉は誰でも知る「おくのほそ道」の著者であり、不世出の俳人です。生まれは伊賀で本名は忠右衛門宗房といい、芭蕉は俳号です。芭蕉は江戸深川の採茶庵(さいとあん・同じ深川の隅田川沿いにあった「芭蕉庵」を引き払って移り住んだところ。芭蕉庵跡には現在芭蕉記念館があります)を船で出て、隅田川を遡り、千住で降り、長い旅のスタートをしました。この千住の地で、おくのほそ道の一番最初に詠んだ句が、素盞雄神社の境内の句碑にもある「ゆく春や 鳥啼き魚の 目は泪」。これが矢立てはじめの句です。芭蕉のこの長旅にかけける思いが込められた一句といえます。旧暦元禄二年三月二十七日(新暦1689年5月16日)のことでした。



南千住と歴史上の人物 その1
『おくのほそ道 松尾芭蕉』

素盞雄神社
芭蕉の句碑